



Marutomi World



- Home
- 会社案内
- 会社概要
- ご案内
- 製品情報
- 新着情報
- リンク
- E-Mail

マルトミです

2. 3月号 (隔月刊)

日ごろのご愛顧に心より御礼申し上げます。

お知らせ



- ☆ 2月よりショールームを春の展示に模様替えしています。ミニ耕うん機や草刈機など多数展示し、あわせてお得なスプリングセールを実施していますので、ぜひお出かけ下さい。また、PDS倭工房によるクワや刃物の展示販売もしています。クワの柄やくさび等の部品類も揃えてありますのでどうかご利用下さい。
- ☆ 4月よりホンダの汎用製品の多くの機種が値上がりすることになりました。人気のミニ耕うん機 こまめやサラダも値上がり予定ですので、御購入はぜひその前にお早めをお願い致します。
- ☆ 3月14日(土)・15日(日)にはマルトミ春のスペシャルデーを開催致します。トラクタ・田植機など春の農業機械の他、新登場のガスカートリッジ式ミニ耕うん機(ホンダ)・充電式ミニ耕うん機(ヤンマー)などの家庭菜園用機械や発電機、電動カーなど家庭用商品も豊富に展示実演致します。日曜日には恒例の青空市や鋸の修理コーナーも開設致しますので、ぜひお誘いあわせてお出かけ下さい。

マルトミカレンダー (2月 ~ 4月) 赤色は休業日

2月							3月							4月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土

1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4			
8	9	10	11	12	13	14	8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11
15	16	17	18	19	20	21	15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18
22	23	24	25	26	27	28	22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25
							29	30	31					26	27	28	29	30		

※ 14/15 春のスペシャルデー

(株)マルトミ 本社: 943-0892上越市西田中236-9(企業団地内)

TEL(025)524-1181 FAX(025)524-1184

E-mail: info@maru-takada.com <http://www.maru-takada.com/>

車・バイク・建設機械以外のエンジン付製品なんでも



機械の点検・修理はおまかせ下さい。

すでにおつきあいをいただいているお客様はご存知かと思いますが、改めて当社の紹介をさせていただきますと、農業機械、消防防災機器、除雪機等の販売とメンテナンス業務を主に行っている会社で、主な取扱メーカーは農機・汎用機械がヤンマー・ホンダ・共立・ゼノア・大島他、消防防災関係ではモリタ・アシモリ・シバウラ他となっております。

メンテナンスにおいては、県認定農業機械整備工場(大)・ホンダ汎用機ベスト特約店として、点検・整備・緊急の出張修理等、全てにわたり迅速確実に対応させていただきます。農業機械、除雪機等はもちろんですが、それ以外の一般機械でもメーカーを問わず修理できますので、ぜひご利用をお願い致します。

故障したけれどどこに修理を頼んだらよいのかわからずお困りの機械などありましたら、まずはお気軽にご相談下さい。修理の御見積りは無料ですのでどうかよろしくお願い致します。



Photo: EJSI



部品もおまかせ下さい。

特に上記の主要取扱メーカーの部品についてはお客様にご不便をおかけすることのないよう供給体制の充実に努めています。在庫していないものでも、通常1~2日でお取り寄せできます。

<部品窓口からのお願い>

部品は一見似かよっていても細かな違いがあり、その種類も膨大です。

正しい部品を迅速にお出しするために、次の点についてどうかご協力をお願い致します。

- ① 電話だけのご注文はどうしても間違いが起りがちですので、できれば直接窓口にお越しいただくか、FAX、メールなどをご利用願います。
- ② 正しい部品をお出しするためには製品の型式名と場合によっては機体番号も必要になります。部品の実物をお持ちいただいても、型式がわからないと部品を特定できない場合もあります
 ので、どうかご協力をお願いいたします。
- ③ 当社では需要の多い部品はできるだけ常備しておりますが、それ以外の部品をメーカーからお取り寄せする場合、部品は一般の製品と違い原則として発注後のキャンセルや返品をお受けできませんので、くれぐれもご注文間違いのないようお願いいたします。

お客様訪問記 7.

上越市 明間清治 様

今回はお風呂・台所製品などの販売・修理・設置工事を行っている(有)あけま生活環境サービスの社長をされ、さらには尺八の大師範でもある明間様を訪問しました。



この冬話題の新ストーブ MOKI MD140を使用いただいています。

人望のある社長、ストーブに入れる薪には事欠かないようです。駐車場からストーブのある部屋まで薪が壁際にズリ...!!「薪をいれ新聞紙に火をつけダンボールで空気の通り道を作る。しばらくするとその窓にはオレンジ色の炎が...。あつという間に部屋が暖くなる。入浴の際は浴室のドアを開けておくと暖かな空気が流れ込みすぐに温まる。とても快適です。今考えていることは耐火レンガをストーブの中に入れてピザを焼いて見たい。」と、「その際はぜひ呼んで下さい」と約束してきました。「1本1本薪割りが楽しみとおっしゃる社長から「ストレス解消には薪割りを」と名言を戴きました。

お忙しい中有難うございました。

(まゆみ記)

お陰様で2008年もホンダ汎用製品の最優秀賞を受賞致しました。

1月に東京で行われたホンダ汎用製品優秀特約店大会において、当社は2008年度の最優秀賞を受賞することができました。これはホンダの汎用製品(ホンダの四輪・二輪を除いたほとんどの製品がここに含まれます)の年間取引額により表彰されるもので、当社では過去十数年間この賞をほぼ毎年受賞して参りました。ここにご報告させていただくとともに、これも偏に皆様のご支援の賜物と心より感謝し御礼申し上げます。



キミヤのPDNSに入会しませんか。

PDNSはインターネットでつながる「中古農機の売り手と買い手の出会いの場」です。当社のお客様として農家登録していただくと、中古農機売買市場のほかさまざまな情報や特典が無料でご利用になれます。詳しくは <http://www.kimiya.net/> をご覧ください。

一足早い春を迎えたショールームの水の生きものたち



暖冬小雪で穏やかな日が多いとはいえ、まだ春の便りが届くのはしばらく先になりそうですが、ショールームの水槽では水の生きものたちの動きが活発になってきました。

驚くのは、この水槽の中でコリドラスという熱帯魚が元気に暮らしていることです。前の冬に3匹が無加温で無事に越冬し、それが夏に産卵して殖え今回は13匹がここで冬を迎えたのですが、今のところ1匹も減ることなくこまで来ています。屋内ではあっても夜間は暖房されないことで水温が10度以下になることも珍しくなく、とくに正月休みの5日間は昼間でも大体7~8度しかありませんでした。それでも平気で、ちょっと水温が上がると他の川魚たちと一緒に普通に餌を食べています。この耐寒性が、もともとこの種が持っていた能力なのか、それともここで身につけたものなのかはわかりませんが、こうした生き物たちの適応力には驚かされるばかりです。

上越の面白い生き物 55.

マルバマンサク

さきがけの花

「まず咲く 万作の花」これは人間国宝、和泉流狂言師の野村万作さんが色紙に書かれた言葉で、井部富夫、高橋鉄雄さんご兄弟の「滝寺窯」の展示室においてあるものです。以前縁あってここを訪れた氏は、この場所が大変気に入って何度も訪問され、御自身で器を作られたこともあったと聞きました。早春の頃ここではよく、花入れにマルバマンサクの花が活かされています。(鳥取県から北の日本海側にみられるものを葉の形で区別しマルバマンサクとよぶのが一般的です)

それはさておき、この言葉のように春のさきがけとしてまず咲く花がこのマンサクで、早ければ3月中旬、まだ他の木々の命が感じられないこの時期に長さ1.5cmほどの細い黄色のねじれた様な四弁花を枝先にたくさんつけます。濃いえんじ色のがくとのコントラストも実によく、目だって見えます。ハンノキなどとともに、上越では、最も早く花の咲く種類の一つでしょう。寒々とした林内にこの花を見つけると、待ち焦がれた季節の訪れを感じ、とてもうれしい気持ちになります。



牧野富太郎博士は「まず咲く」によるとされる、この名の由来がうまく出来すぎているとの理由で反対され、「花が豊富に、枝に咲き満ちている処から豊年満作の意味が正しい。」と言われていました。黄色の花からは黄金の稲穂が連想され、そのような名前になったとの説も良くわかります。長野県の方言に「トキシラズ」というのがありますが、これも何も無い時期に咲くマンサクの花に対する驚きのすなおな表現といえましょう。

今ではほとんど忘れられてしまった里山の仕事に「ボエ切り」とか「ボヨ切り」というのがあります。これは焚き付けや薪にする小枝や細木を山からとって来ることでおもに晩秋の作業として行われました。その切ったものをまとめて括るのに縄などではなく、現場で調達した木の枝を使いました。ガマズミ、リュウブなど何種類かの木を選んで用いましたが、なかでもマルバマンサクのねば

りのある枝が最高で、親指くらいの枝を適当な長さに切り、ねじってから使います。絶対にゆるんだり、抜けたりせず重宝したものだそうです。その他、いかだを組んだり、合掌造りの棟木や横木を固定する際などにもねじったこの枝が使われました。それぞれの樹木の性質を知り尽くし、その場に合わせて使いこなす先人たちの知恵には感心させられるばかりですが、このような生きた技術の継承が、年ごとに難しくなっているのも寂しいことだと思います。